



発達障害支援者圏域別研修会を開催しました！

今年度は、発達障害者地域支援マネジャー配置事業所である NPO 法人さわおとの森と共催し研修会を開催しました。

日時：令和6年1月23日（火）13：15～16：15 塩釜圏域対象
令和6年1月26日（金）13：15～16：15 黒川圏域対象
講師：子ども総合センター 佐藤寛記先生（小児科医）
テーマ：発達が気になる子どものアセスメントと保護者支援
参加者：塩釜圏域 40人
黒川圏域 17人

- 内容 ①シートを活用して気になる子の特性を整理しそれを根拠に支援目標を考えよう。
②保護者に園での様子を伝えるためには、保護者の困り感を知ったうえで関係を構築することが大切！

STEP 1 気になる子の特性を整理しよう



皆さんが、「なんか気になるのよね～」「話をきいてるのかしら？」「なぜこの場でパニックになるのかしら？」など気になっている行動が起きている背景にあるその子の特性を見える形で整理することで、他の支援者とも共有できます。

STEP 2 整理した特性を根拠に気になる子の強みと弱みを整理。強みを活かした支援内容を考える



特性を整理することで、その子の強み(できていること)と弱み(苦手なこと)が見えてきます。

こどもの特性を整理したうえで具体的な支援目標や支援方法を検討します。
弱み(苦手なこと)に対してなんとかしてあげたいと思ってしまいがちですが、強みを伸ばしてあげる支援に視点を切り替えスモールステップで支援をおこなうことで、子どものできるが増え、褒められることで自己肯定感が高まり自信につながります。

STEP 3 うまくいったこと・できたことを保護者に伝えまずは関係づくりを

関係づくりのコツ



- ①保護者がどんなことに困っているのかなどを知ることが関係作りのスタート。
- ②「苦手さ」だけを伝えない・出来ないことばかり指摘されると話し合うことが嫌になり支援が途切れてしまうことも。
- ③対応の工夫を考えて実践し、その結果を共有することを積み重ねる・「〇〇のように工夫してみたらいつもより上手にできました」「〇〇のような環境や工夫があると〇〇ちゃんの成長に良いかもしれませぬ」などなど。

→有効な工夫を考えるためにもまずは特性の整理(アセスメント)が大切

通所中のお子さんのこんな悩みがあればご相談ください。

～仙台保健福祉事務所では発達障害者地域支援マネジャーと連携しながら
相談に対応しております。～



- 発達を促すための遊びを知りたい
- 不器用な子に道具の使い方を促したい
- 姿勢や動作が気にかかるお子さんにできること
- 負担が少ない介助方法について知りたい
- 自宅での生活について相談を受けたがどのように進めていけばよいのか
- 家族への関わり方を相談したい
- 家族を交えて子どもの発達を共有したい
- 気になる子のアセスメントを行いたい
- 園・施設内での職員研修を開催したい



相談料:無料

連絡先:仙台保健福祉事務所 健康づくり支援班

022-363-5503

担当:川村・渡邊

ご連絡

仙台保健福祉事務所では、令和2年度より地域の発達障害児を支援されている支援者の皆様へ「子どもアセスメント通信」を発行してまいりました。現在は、発達障害に関する研修会については、発達障害者地域支援マネジャーと連携しながら取り組んでいる状況であり、これまで発行しておりました「子どもアセスメント通信」の発行については今年度で終了としております。今後は相談等を通して支援者の皆様と連携していきたいと思っております。今まで発行を楽しみにしていただいていた皆様には感謝申し上げます。

これまでの通信は当所ホームページに掲載されています。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sd-hohuku/reha-reco-kodomo-assesment.html>

[発行・問い合わせ先]

宮城県仙台保健福祉事務所健康づくり支援班
〒985-0003

宮城県塩竈市北浜4丁目8-15

TEL: 022-363-5503

FAX: 022-362-6161

メール sdhwfzke@pref.miyagi.lg.jp